



## 【イエスのように人の救いのために！】

説教者：鄭南哲牧師

聖書本文：ヨハネの福音書4章3～14節・今週の暗唱聖句：ヨハネの福音書3章16～17節

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！明日から雨の日が続く“梅雨のはしり”と呼ばれる天気傾向になりそうです。みんなそれぞれお忙しい中、体調崩しやすい今の時期に、体調管理に気を付けて下さい。

## &lt;1. 救うために来られたイエス・キリスト&gt;

実際イエスキリストを信じ、生きておられるイエスキリストとともに日々歩む人々は、イエス・キリストのように考え、イエスのような品性を抱き、イエスキリストのように振る舞い、益々イエスキリストの御姿に変えられて行くことになると信じます！そのような人たちこそ、イエスキリストの真の弟子たちであると言えるのではないのでしょうか。この世にイエス・キリストが来られた一番主な目的は何でしょうか。

それはメシヤ、救い主なるイエスがお生まれになった時に明らかにされています。

ルカの福音書2章10-11節「御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。今日ダビデの町で、**あなたがたのために救い主がお生まれになりました。**この方こそ**主キリスト**です。」

イエスのお名前にも、神の御子イエスキリストが人の体を持ってこの世に来られた目的が示されています。マタイの福音書1章21節「**マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。**」イエスの名前の意味は「ご自分の民をその罪(罪という言葉は、ギリシャ語で「ハマルティア」：神から離れてしまった、神の言葉から外れてしまったという意味)からお救いになる」として分かるように、イエスキリストはこの地上に神から離れて罪の中にいる民を救うために来られたことが分かります。

「人の子(イエスキリスト)は、**失われたものを捜して救うために**来たのです。(ルカの福音書19章10節)」

「わたしは**門**です。だれでも、**わたしを**通って入るなら**救われます**。また出たり入ったりして、牧草(ぼくそう)を見つめます。(ヨハネの福音書 10 章 9 節)」

「だれか、わたしのことばを聞いてそれを守らない者がいても、わたしはその人をさばきません。**わたしが来たのは世をさばくためではなく、世を救うためだから**です。(ヨハネの福音書 12 章47節)」

## &lt;2. 一人を救うために行かれるイエス・キリスト&gt;

## ①人を救うために先に来られ、待てておられるイエス・キリスト

今日の本文はイエス様がスカルというサマリアの町に行かれた時の出来事を紹介されています。

イスラエルの地図をみると、イエス様の当時は3つの地域に分かれていたことが分かります。

一番北側がガリラヤ、中間地域がサマリア、一番南側がユダヤです。そして、今日の本文をより深く理解する為には、イスラエルの歴史の背景を知る必要があります。つまり、旧約の時代、あの有名なソロモン王が死んだ後、イスラエルは南北に分裂されてしまい、一つのイスラエルの国が北はイスラエル王国、南はユダ王国に分かれてしまいました。しかし、神の前で罪を諦めず、犯し続けた北イスラエルは B.C.721年にアッシリアの侵略により滅ぼされるように神は許されます。当時、古代近東地方を征服したアッシリア帝国は征服された国々が反乱を起こさないように「民族分散政策」を立てて、強行しました。そのため、北のイスラエル王国も征服された後、イスラエル人たちを捕虜としてアッシリアとバビロンの地域に散らして生活させ、バビロン、クダ、ヤワ、ハマツ、スバルワイムの多くの人々を北イスラエルの首都だったサマリアに強制的に移住させ、好意にイスラエルの民族と婚姻(こんいん)関係を結ばせ混血民族となるようにさせました。

一方、南ユダ王国もバビロンに捕虜として連れられ、散らされて住んでいましたが、ユダヤ人たちはきびしい環境においても純粋なイスラエルのユダヤ人としての血統(けつとう)と信仰を守って来ましたが、サマリアに残され住んでいた人々はそのように守ることができなかった！そういうわけで、捕虜の生活から帰って来たユダヤ人たちとイスラエルの南に残っているながら血統と信仰を守り抜いた純粋なユダヤ人たちは、**サマリア人たちを汚れた者として扱い、ユダヤ人の恥だと思ひ、彼らをさげすみ、一切交流しようともしませんでした。**

記録によると、**サマリア人たちは獣の扱ひまでされていたとも言われました。**そういうわけで、北にあるガリラヤと南にあるユダヤ王国は交流がありましたが、**イスラエルの真ん中にういたサマリア地域の人々はまったく無視され、孤立された地域だったので、サマリアを通らず、わざと遠回りをして行きました。**

ですから、**イスラエルは北南に貫通する道路もなく、サマリアを除いた地中海側か、ヨルダン川辺に沿っていく二つの道がエルサレムにつながる英語の文字 H のような道路が発達して来たわけでありませう。**

確実なのはイエス様がユダヤからガリラヤに向かう時にたまたまではなく、わざとサマリアの町にお入りになったことが分かります。**4節**を見ると、「**サマリアを通過して行かなければならない**」と聖書に記されています。

**ところが6節**に、ユダヤ、つまりエルサレムを去って、**6時ころつまり、真昼の12時**になったごろ、サマリアのスカルという町に着かれました。その町には井戸が一つあって、イエス様はその井戸の傍(かたわ)らに座っていて、弟子たちは食べ物を探しに町に出かけました。ちょうどその時、**7節にサマリアのスカルの一人の女が水を汲みに来たのは実は、とても珍しいことでした。**

なぜなら、イスラエルは水が大切なので、井戸一つを町のすべての人々が使っていましたが、あまりにも正午(しようご)12時はとても暑い時間帯なので、当時、普通の町の人々は水を汲みに来るのは朝早くか、日が沈むごろであったので、井戸の周囲にはだれもいなかったわけでありませう。

正午に水を汲みに来たこの一人の女は特別な時に、イエス様と一対一で会うことが出来たのです。

イエス様はその女に **7節**に“**水を飲ませてください。**”と言われました。

**9節**にその時、その女は「ユダヤ人であるあなたは どうして、サマリアの女である私に水を求めておられるのですか。」と尋ねると、それにイエス様は**10節**に「もしあなたが神の賜物を知り、また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのかを知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたでしょう。そして、その人はあなたに生ける水を与えたことでしょう」と言われました。

後に後半の**25節、26節**を見ると、スカルのサマリアのこの彼女はイエス・キリストがどなたであるかを心から信じ、スカルの町の人々にも喜んでイエスキリストは真の神の御子救い主であることを宣べ伝える人になります。

弟子たちはイエス様がサマリアに行かなければならないと言われたとき、その理由についてはまったく知りませんでした！しかし、イエス様はその女に出会うためにご計画の中サマリアに行かれたのです。これを言い換えると、サマリアの女はイエス様についてまったく知りませんでした、イエス様はすでにその女の人生の全てをよく知っておられ、その女に出会うために意図的に彼女がいるサマリアのスカルという町まで、それとも一緒に住んでいた町の人々もあんまり知らなかった水を汲みに来る時間に合わせて先に行かれ待てておられたのです(6-7節)。イエス様はこの一人のサマリアの女を救うために、彼女はよく水を汲みに来る井戸ですっと待てておられたのです。そのイエスキリストが今も生きておられ、一人一人が救われるように、待てておられるお方です。

## ②すでに人の全てを知っておられ、救いの御業を成されるイエス・キリスト

サマリアのスカルの町の井戸のかたわらに座っておられるイエス様とまったくはじめて出会った彼女でしたが、イエス様はすでに彼女のすべてをご存じでした。**18節**には、彼女しか知らなかったはずの彼女の結婚生活がすでに5回目もうまく行かず、また6回目はまだ正式に結婚もせず、同居している人がいる事さえ、イエス様はすでにご存じでありました！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！イエスキリストはみなさんが人に隠したいこと、決してばれたくないことも、心の傷や恥ずかしさ、プライベート的な秘密的なことさえも、すべて知っておられるお方であることを忘れないでください。

**エペソ人への手紙1章 4-6節**にこう書かれています。「すなわち神は、世界の基(もと)が据(す)えられる前から、この方(イエスキリスト)にあって私たちを選び、御前で聖なる、傷のない者にしようとされたのです。5神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあなはじめ定めておられました。6それは、神がその愛する方(イエスキリスト)にあって私たちと与えて下さった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。」

サマリアの女は今日ただ水を汲みに来て、たまたま偶然イエス様に出会ったと思ったかも知れません。しかし、キリストの御前では決して偶然ということはありませぬ！実は神様がこの世を創造される前から、神の愛を持ってその女を選び、もはや傷のない神の子として癒し、救うことを定めておられた尊い人生でした。決して一人ぼっちではなく、実は彼女の人生はすでに、神の御計画と御手の中にあつたわけでありました！

信じて救われる前の人たちを聖書は“**失われた羊**”だと例えました。神様は自らご自分の定められたご自分の人たちを取り戻し、救おうとされる救いのご計画をもっておられるお方であることを信じて下さい！

ですから、イエス様がその女に出会うために、ユダヤ人たちが行かないサマリアのスカルという町までに行かれ、井戸で待てておられたように、実は、我らのところにもそのように先にイエスキリストが訪ねて来られたのではありませぬか。そして、我らが先に神を知り、信じる前に、実は、神がすでに我らを愛され、我らの人生を知っておられ、神の愛のうちに救いの御業をなして下さつたのではありませぬか。

イエス様は、サマリアのこの一人の女を救うために、イエス様が直接会いに行かれ、ずっと彼女を待たせておられ、彼女を救い出して下さったように、今日、我々にもイエス様が先に我らのところに来られ、イエスキリストと出会わせて下さり、キリストの救いを与えて下さったでしょう。

結局、サマリアの女も、始めはイエス様が救い主であることを知らなかったのですが、後になって分かりました。このように今日ここに来られた方々の中でも、今はすぐイエスキリストが分からなくても、必ず主が信じられるように、救われるようにお導いて下さると私は信じています！

今日も救い主なるイエスキリストが、みなさんとみんさんのご家族、みなさんの周りにいる人々を救うために、みなさんのところに行かれ、みなさんと出会わせて下さると信じ、感謝いたします。

すぐその場でイエスキリストのお言葉通り信じるようになった彼女はイエスにこう言いました。

**15節に「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」と求めます。すると、突然、イエス様は彼女に、自分の夫を呼んで連れて来るように言われます。**

**16節に「イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」そしたら、彼女は自分の夫がいないと答えます。**

イエスキリストはすでに彼女の人生の中夫婦関係や家庭生活において深い痛みと問題を知っておられました。

**17-18節「彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には夫がない、と言うのは、そのとおりです。18あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」**

実は、そのサマリアの女の今までの人生の深い事情と理由は分かりませんが、今までの人生の道のりが普通ではなかったことを予想出来るでしょう。5回も結婚し夫が五人もいましたが、また今は六人目の人と同居(どうきよ)し住んでいる状況であることをすでにイエスキリストは知っておられました。

このサマリア・スカルの町の人々でさえ、きっとそんな女に対して冷たい厳しい視線を持っていたはずでしょう。あまり彼女と付き合おうとしなかったようです。そのため、この女は人々の目を避けてだれも来ない日中一番暑い時間に水を汲みに来たのに、イエス様はその女に出会うために、わざわざその時間にサマリア・スカルの町の井戸にまでこられ、待ててくださったわけでありませう。

たとえ、そのサマリア女はほかの人々からいくらどんなに非難されるべきところがたくさんあったとしても、イエスキリストは彼女を非難されず、哀れんで愛して下さり、彼女を人生を救おうされていたことが分かります。イエス様は彼女の人生のむなしさ、深い飢え渴き知っておられ、わざわざ訪ねて、その女と一対一で出会わせてその人生から生まれ変わり、新しく生きることが出来るように導こうとされていたことが分かります。

きっとこのサマリアの女はただひたすらこの地上で真の愛を求めて、必死に自分なりに努力し、背一杯頑張って夫を選択して来たのに、結局何度も辛い思いと、失敗を経験の繰り返しばかりで、傷だらけの彼女の人生だったのではないのでしょうか。

結局、彼女は 5 回もうまく結婚生活は続かず、また、6 回目の今は、結婚もせずに、同居している状況の女でした。もうどうでも良いような、仕方なく無念で、無気力で、空しい人生を歩んでいた疲れはててさまよっていた彼女の人生だったかも知れません。サマリアの町の人たちさえも、周りからの冷たい視線を受け、あまり人と関わろうとしなかった孤独で寂しい彼女の人生であることを、イエス・キリストはこのサマリア女の人生のむなしさと傷、すべての事情を知っておられました！

そして、イエスキリストは彼女の人生さえも愛され、かえりみて下さり、哀れんで下さっています。そして、彼女に永遠に乾くことのない生ける水、永遠の命を与えて下さいました！

**14節に、イエス様は「しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまで決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」**

イエスキリストは人生の決して乾くことのない永遠のいのちの水があることと教えつつ、ご自身がそれを与えることが出来る救い主・メシアであられることを彼女に表します。

**25-26 節をご覧ください。**

「女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。26イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

彼女は迷わず、イエス様の御言葉通り、そのままイエスキリストを自分の救い主として、受け入れ信じて、今まで経験したことのない神の永遠の乾くことのないの水を、いのちを頂くことが出来ました！

そして、あまりにも自分に与えて下さった神の愛とイエスキリストの恵みを喜んで、すぐ町に行って人々に真の救い主が来られた良い知らせを宣べ伝えつつ、変わった人生の踏み出しが出来ました。ハレルヤ！！

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(第一ヨハネの福音書 4 章 9—10 節)

この世に来られる時から、十字架で死なれた理由も、イエスキリストご自身にとって一番大切だったのは、すべて人の救いのためであったことが分かります！

ヨハネの福音書 3 章 16—17 節です。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。17 神が御子を遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」

イエス様はその慈しみ深く、愛の心を持って、この世の人々を救うために来られ、一人一人の人生を、その家族、その町の人たちまでも、そして多くの民を救ってくださいました！

コリント人への手紙第二 5 章 17 節にはこう約束されています。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」 アーメン！

その救い主イエスキリストは今も我らを待てておられ、信じる一人一人の取り除くことが出来ない人生のむなしさ、過去の恥と心の痛み、絶え続く人生の飢え渴きに対して、永遠に乾くことのない神の永遠のいのちを与えて下さっています。今も、信じるすべての人々に神の御救いを与えてくださいます！

今もそのイエス様は今も我らの為に、我らをどのように待てておられるのか ヨハネの黙示録 3 章 20 節ではこう書かれています。「見よ。わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、その人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」このように祈ってみて下さい。

“神様が何度も私を訪ねて来てくださったのに、私は気づかないで、知らないまま、心の戸を開けないまま、断り、迎え入れなかった時をお赦し下さい。しかし、今私の心の戸を開けます。イエス様を私の救い主として信じ、永遠に乾くことのないいのちの水を私にもお与えて下さい。そして、私にも神様の永遠の御国に入れる祝福をお与えて下さい。今イエス様が私の心のうちにお入りになって下さることにより、今までのわたしのすべての古いものを捨て去られ、キリスト・イエスにうちに新しい人生が始まりますようにどうか私をつくりかえ助けてください。救い主なるイエスキリストの御名によって祈ります！アーメン。”

今日一人のサマリアの女の人生を救うために、訪ねて下さったイエスキリストの愛と御救いがクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族の一人一人の人生の上に与えられ、すべての愛する家族、周りの人々にも渴くことのない永遠のいのちの水が流され、満ち溢れますように祈ります！

みなさん！神の御前で隠しているどんな過去や傷があっても、今までどう過ごして来たとしても、神の前で大事じゃない人生はありません。みんなイエスキリストの御前で尊い人生であり、神の救いを受けることが出来る神に愛されている存在であります。

願わくは、愛するクリスチャンプレイズチャーチすべての信仰の家族の心と人生に今まであったすべての痛み、悲しみ、飢え渴きに、イエスキリストが与えて下さる永遠に乾くことのない永遠のいのちの泉が満ち溢れ、神の救いの恵みと喜びに満たされますようにお祈り申し上げます！

今日我らも、イエスキリストのように！一人一人の尊い魂の救いのために！キリストの愛を持って人を助け、顧みることが出来ますように、時が良くても悪くても人々がイエスキリストを信じて、救われ、人生が変わっていくことをともに見ることがこれからも出来るように切にお祈り申し上げます。アーメン！

使徒の働き 16 章 31 節「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます！」アーメン！